

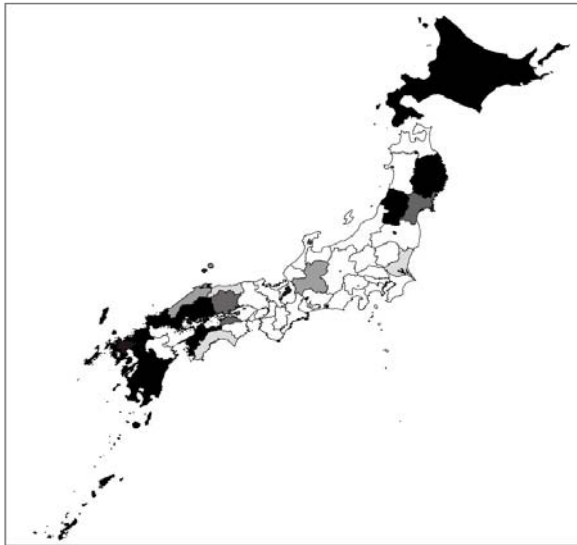
全国的なカワウの状況について

カワウの生息や捕獲の状況および被害の変化について、現時点での最新の情報を整理する。

カワウの生息状況

調査が十分に行われていない地域が多くあることから、全体像は把握しきれていない。

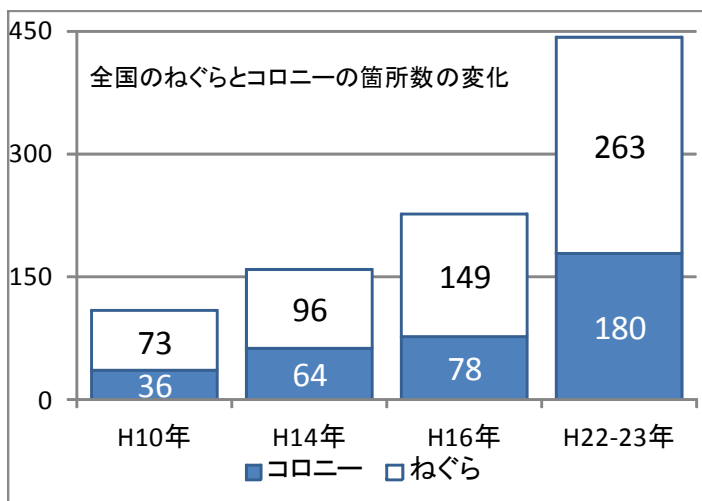
○都道府県別カワウ生息状況の把握の現状



1. 白…ほぼすべてのねぐらで調査がおこなわれている。
2. 薄灰色…毎年1回は調査がおこなわれている。
3. 灰色…一部のねぐらだけで調査が継続。
4. 濃灰色…平成21年以前にすべてのねぐらで調査がおこなわれたことがある。
5. 黒…ほとんど調査されていない。

広域協議会がある関東・中部・近畿を除く地域での把握が遅れている。

○ねぐらとコロニー（集団繁殖地）の箇所数の変化



平成10年: 日本野鳥の会
 平成14年: 日本野鳥の会
 平成16年: 特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(カワウ編)
 平成22-23年: バードリサーチまとめ ※

※ 平成22年-23年のデータは、関東カワウ広域協議会、関西広域連合、そのほかの各都道府県のカワウ担当、各地の鳥類の研究者及びバードリサーチの自主調査による。

平成16年と比較すると、それぞれの箇所数は、コロニーで2.3倍、コロニーを含むねぐら全体で約2倍となっている。

○カワウの生息数(都道府県別 3 月の生息数のグラフを参照)

カワウの生息数については、まったく調査がされていない地域があること、また直近で調査が行われておらず、年代が古いデータのみ存在する地域や、調査が実施された季節にばらつきがあることなどから、全国的な生息数の推定が困難な状況となっている。平成22-24年の3年間の繁殖最盛期(3月)に調査時期を絞ると(グラフの黒棒の合計)、全国で253か所のねぐらやコロニーで調査が行われており、そのデータを集計すると、カワウの羽数は67,680羽であった。(滋賀県は、5月に繁殖最盛期となるため参考値として示した)

注)この他、調査の年度や季節が異なる地域で、過去に生息数のデータが記録されていたねぐらやコロニーは69か所あった。さらに、ねぐらの場所は把握されていても生息数が分からない箇所や、ねぐらの場所が見つかっていない地域などもあるため、全国のカワウの生息数を把握するためには、これらの地域においても詳細な調査を進めていくことが必要となる。

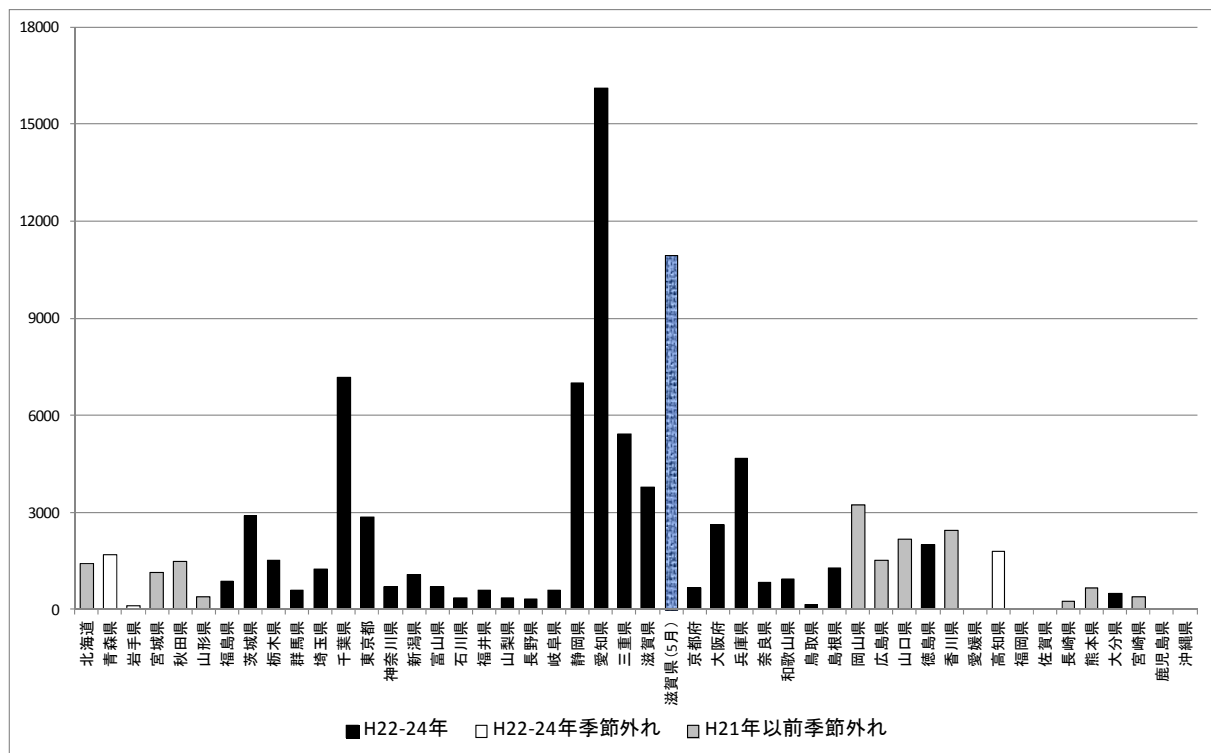
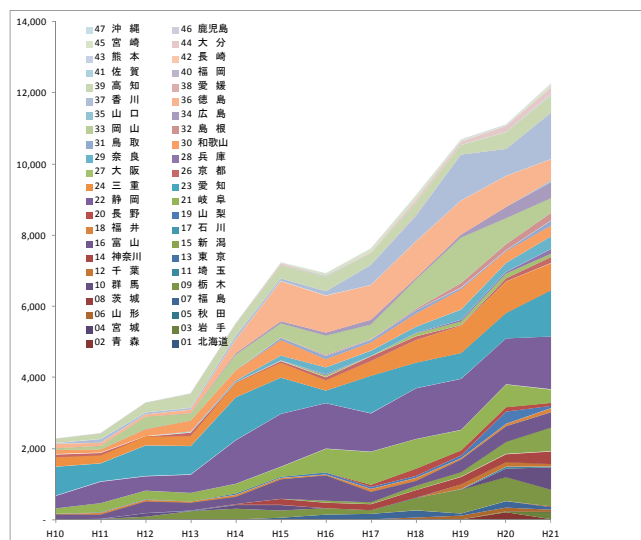


図. 都道府県別 3 月の生息数(参考のため「滋賀県(5月)」を加えた)

カワウの捕獲状況

被害対策のための有害捕獲や特定計画に基づく個体数調整および狩猟によるカワウの捕獲数は、近年増加傾向にある。滋賀県では特定計画のもと、プロによるエアライフルを用いた高度な捕獲技術を導入し、平成 21 年度には全国の有害捕獲と個体数調整の約 60%にあたるカワウを捕獲している。

有害捕獲＋個体数調整（滋賀県を除く）

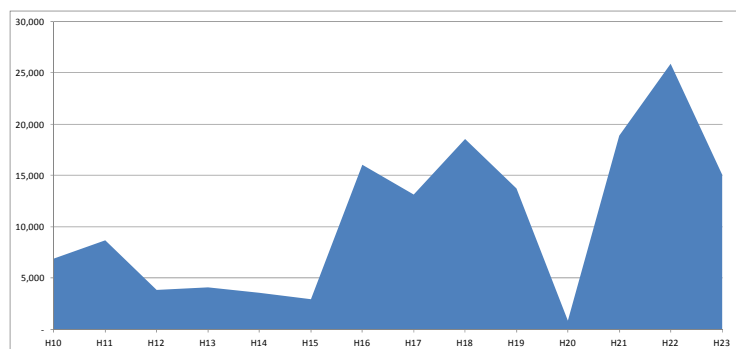


平成 21 年度は 12,262 羽であった。

有害捕獲と個体数調整の数は増加傾向が続いている。

捕獲数が多いのは、静岡県、愛知県、香川県などであった。

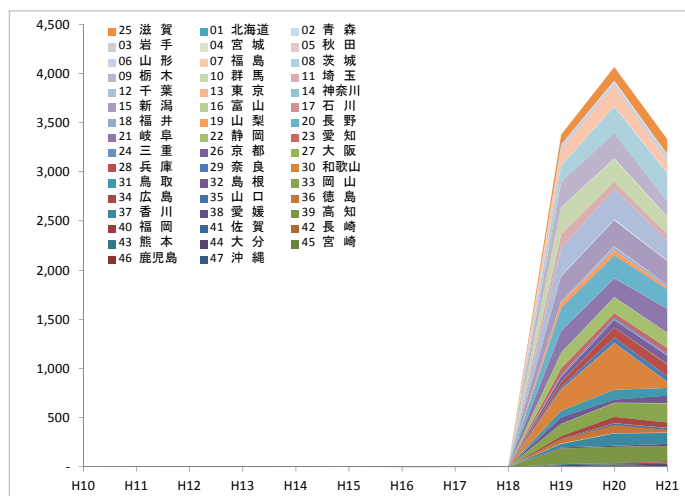
滋賀県 有害捕獲＋個体数調整



特定計画に基づき、被害対策および個体数調整として捕獲が進んでいる。エアライフルによる高度な捕獲技術の導入で大量捕獲が可能になってきた。

平成 21 年度は 18,874 羽であった。

狩猟



平成 19 年度より狩猟対象種となった。

平成 21 年度は 3,330 羽であった。

狩猟数が多いのは、茨城県、新潟県、岐阜県などであった。

※平成 21 年度の全国の有害捕獲と個体数調整と狩猟の合計は、34,466 羽であった。

被害の変化

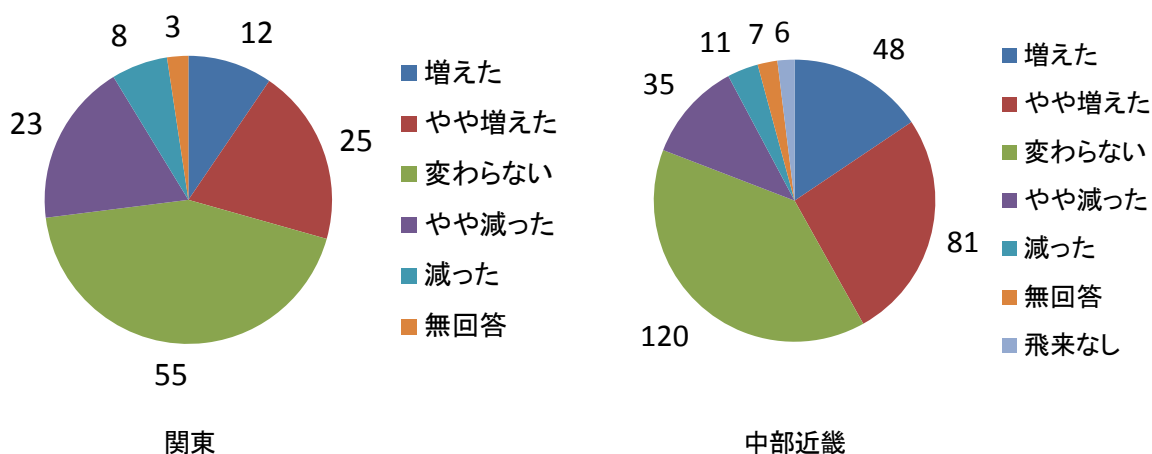
漁業協同組合がカワウによる被害の変化をどのように感じているかを知るために、アンケートをおこなった。地域により、被害量の変化に対する意識がやや異なっている。

(平成 22 年度狩猟鳥獣（カワウ）のモニタリング手法等検討調査業務報告書より)

関東カワウ広域協議会と中部近畿広域協議会の参加都府県の範囲で、合計 399 団体からの回答を得た。

●設問 1: カワウの飛来・着水数について

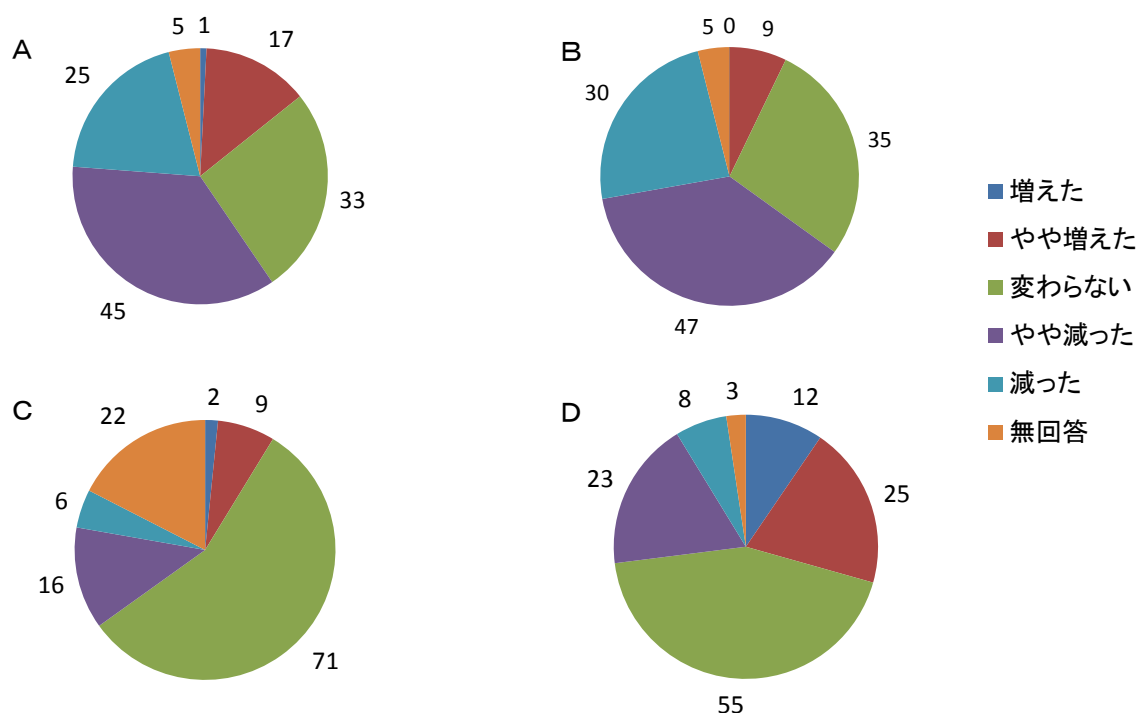
カワウの狩猟鳥指定より前(平成 18 年度以前)の冬季と、指定後の冬季を比べて飛来数の変化について



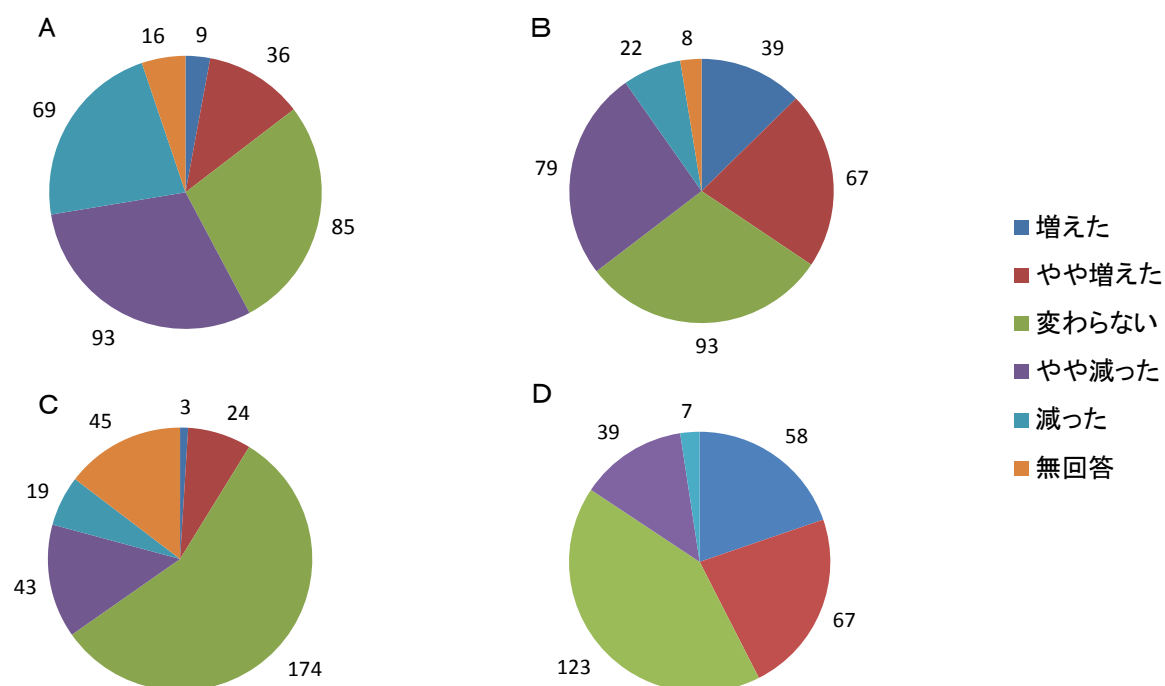
●設問 2: 被害状況について

カワウの狩猟鳥指定前より前(平成 18 年度以前)までと比べてのおおよその変化について

関東地方 A) 入漁者数、B) 遊漁料収入、C) 放流量、D) カワウによる被害 (平成 21 年度調査)



中部近畿地方 A) 入漁者数、B) 遊漁料収入、C) 放流量、D) カワウによる被害(平成 22 年度調査)



D 被害量についての回答(関東 平成 21 年度調査)

カワウによる被害	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	静岡	総計
増えた	1		1	3				3	2	2	12
やや増えた	1	2	3	1	1	3	3	2	5	4	25
変わらない	5	5	11	8	2	5		1	5	13	55
やや減った	2	1	2	3	1	3		2	5	4	23
減った	2	3	1	1						1	8
無回答								2		1	3
計	11	11	18	16	4	11	3	10	17	25	126

D 被害量についての回答(中部近畿 平成 22 年度調査)

カワウによる被害	新潟	富山	石川	福井	長野	岐阜	愛知	三重
増えた	8		2	3	5	6	5	4
やや増えた	2	3	3	4	8	14	6	4
変わらない	9	4	4	5	11	20	14	10
やや減った		2			2	11	5	6
減った	1	1		1	1			
計	20	10	9	13	27	51	30	24

カワウによる被害	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	徳島	総計
増えた	5	3	3	9	3		1	58
やや増えた	4	6	2	3	5		3	67
変わらない	12	1	2	8	13		6	123
やや減った	8	1		1			3	39
減った	3							7
計	32	11	7	21	21		13	294